

第2章 良好な景観の形成に関する方針

第2章 良好な景観の形成に関する方針

1. 基本理念と目標

白河市がめざす景観づくりの基本理念と目標は、次のとおりとします。

【基本理念】

～次世代に伝える白河らしい景観～

みんなで育む美しいふるさと白河

白河市の景観は、本市の魅力と風格を決定する重要な構成要素であり、これまで培われてきた文化の集大成といえます。市民にとっては、ふるさとの愛着と誇りを身近に感じられる最も重要な公共財産の一つです。

那須連峰の裾野に広がる緑豊かな美しい景観、先人により守り築き上げられてきた白河関跡、小峰城跡、南湖公園など、白河市にとってはどれもかけがえのないものです。また、城下町のおもかげを残した中心市街地は、400年来の人々の生活やふれあいの中で育まれた歴史的な財産でもあります。これらの白河らしい景観を慈しみながら、次の世代に伝えていくことが私たち市民に課せられた役割といえます。

このように、景観にはこれまでの長い歴史や文化、市民の暮らしぶりが反映されるため、長い期間をかけて少しずつ守り育てていくことが大切です。

市民の皆さんと協力し、白河市に数多く残る歴史的な景観や美しい自然景観を守り育てるとともに、魅力をつなげ、将来に向けてより美しいふるさと白河の景観を築いていきます。

【景観形成の目標】

○白河らしい歴史的景観を守り伝えます

白河市には、南湖公園や小峰城跡、白河関跡など、先人が守り築いてきたかけがえのない歴史的遺産があります。

これら後世に残すべき財産を活かしながら、地域の風土や文化を反映した魅力あふれる白河市の景観を育てていきます。



小峰城跡三重櫓

〇にぎわいのある美しい街並みの景観をつくります

白河市は県南地域の核として多様な都市機能が集積していることから、歴史や自然景観との調和を図りつつ、魅力とにぎわいのある市街地景観を形成します。

また、行政関連施設や文化施設等は、周辺の景観特性と調和した質の高い形態意匠のデザインとし、景観形成の先導的役割を果たすよう努めます。



Decora しらかわ

〇ふるさとの田園景観を守り伝えます

阿武隈川、隈戸川及び社川などの流域沿いなどに広がる田園景観は、優良農地としてだけでなく、都市の貴重なオープンスペースとして、また白河市の代表的なふるさとの風景として、守り続けていきます。



田園景観

〇豊かな自然景観を守り伝えます

那須連峰をはじめとする山々や丘陵地、河川など、地域の誇りある美しい風景を保全するとともに、これらへの眺望が確保できる場所や景勝地を守り育むことにより、地域の美しい自然景観を次世代に継承します。



関山

○優れた眺望景観を守り伝えます

白河市は四方を山々に囲まれています。特に那須連峰は、白河市を代表する美しく雄大な景観が得られることから、昔から広く親しまれてきました。

これらの四季折々に変化するいろどりの豊かな山並み景観は、白河市の景観を構成する最も重要な要素として守っていきます。



小峰城跡より那須連峰を望む

○住民による身近な景観づくりを推進します

市民、NPO、民間事業者の主体的な活動や、行政との協働により、ふるさと白河の景観づくりを進め、景観資源として未来に継承していきます。

また、景観に関する情報を積極的に発信し、市民の景観に関する意識の醸成に努めるほか、景観形成の企画・立案段階から市民の参画を図り、地域の意向を十分に反映した特色ある景観づくりを推進します。



谷津田川

第2章 良好な景観の形成に関する方針

2. 景観計画区域の区分

白河市全域が対象となる景観計画区域内には様々な土地利用や景観特性が見られるため、次のとおりきめ細かく区域区分を定め、この区域区分ごとに景観形成方針を定めます。

歴史景観	○小峰城跡・白河駅周辺地区 ○城下町地区 ○南湖公園周辺地区 ○歴史的街道沿いの集落地区 ○白河関跡周辺地区
都市景観	○新白河駅周辺地区 ○工業団地地区 ○住宅地地区
田園景観	○阿武隈川流域地区 ○隈戸川流域地区 ○社川流域地区
自然景観	○権太倉山麓地区 ○八溝山麓地区

また、景観計画区域のうち、特に美しい景観形成に向けて重点的かつ計画的に整備していく必要のある地区については、「景観計画重点区域」及び「景観計画推進区域」を設定します。これらの地区は、地域の皆さんの意見を聴きながら、地区の現況や課題をふまえた景観形成方針を示し、地区独自のよりきめ細やかな景観形成の基準を設けることにより、より良い景観誘導を図っていきます。

景観計画 重点区域	本市の有する貴重な特色が象徴的に現れ、良好な景観の形成が特に必要とされる地区で、地区の特性に応じたきめ細かな景観形成をめざします。	
	名称	区域
	小峰城跡・白河駅周辺地区	史跡「小峰城跡」、都市計画法に基づき定められた白河駅北地区計画及び白河駅南地区計画地区、白河駅舎及びプラットホーム周辺を含む地区【23 ページ図 7】
	南湖公園周辺地区	史跡・名勝「南湖公園」、南湖風致地区及び南湖風致地区と一体となって良好な景観を形成する地区（風致隣接地区）、及び上流の農業振興地域（国道 294 号東側まで）の一部を含む地区 【25 ページ図 8】
	白河関跡周辺地区	史跡「白河関跡」、白河関の森公園を含む地区 【27 ページ図 9】
景観計画 推進区域	歴史的景観を継承するために行政と地域住民との協働が必要とされる地区で、地域住民とともに景観まちづくりを推進し、住民による景観協定をめざします。	
	名称	区域
	城下町地区	旧奥州街道に沿って発展した城下町地区、整備された谷津田川せせらぎ通り周辺、及び歴代白河藩主菩提寺跡のある小南湖周辺を含む地区 【29 ページ図 10】
		(城下町地区 重点推進区域) 城下町地区の区域の中でも、旧奥州街道沿い等に面し、歴史的景観資源が豊富に存在する区域 【31 ページ図 10-1】
歴史的街道沿いの集落地区	江戸時代に整備が行われた旧街道に面する宿場景観を残す周辺地区 【33 ページ図 11】	

第2章 良好な景観の形成に関する方針

景観計画区域の区分

歴史景観	小峰城跡・白河駅周辺地区	
	南湖公園周辺地区	
	白河関跡周辺地区	
	城下町地区	
	歴史的街道沿いの集落地区	
都市景観	新白河駅周辺地区	
	住宅地地区	
	工業団地地区	
田園景観	隈戸川流域地区	
	阿武隈川流域地区	
	社川流域地区	
自然景観	権太倉山麓地区	
	八溝山麓地区	
景観軸	道路軸	
	河川軸	

※ 景観計画重点区域 景観計画推進区域
● 主要な景観資源

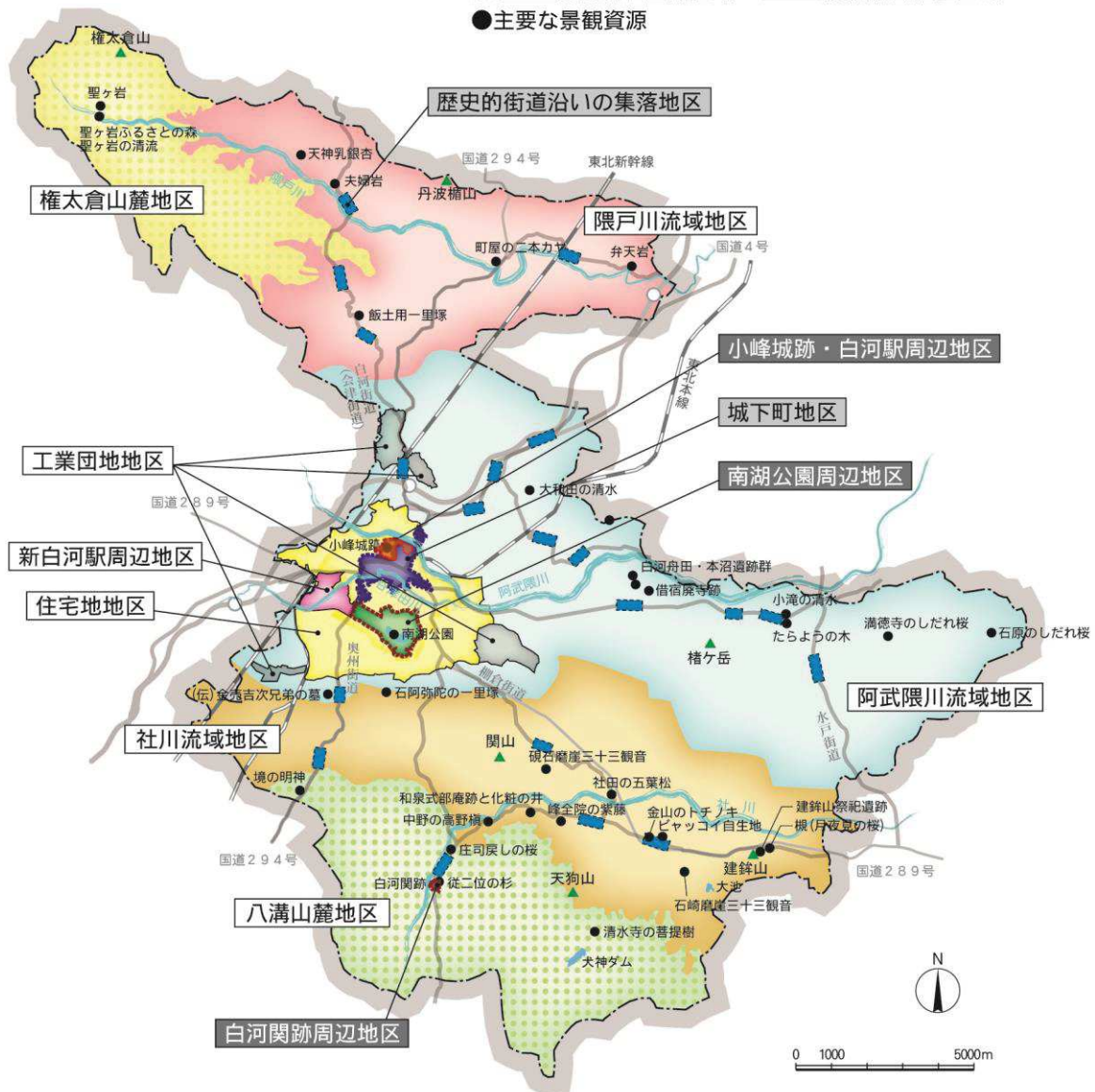


図6 景観計画区域の区分

3. 景観形成方針

■ 歴史景観

小峰城跡・白河駅周辺地区（景観計画重点区域）

【位置づけ】

JR 白河駅の北側に位置する小峰城跡は、約 700 年の歴史を持つ城跡で、市内の高校の校歌にも歌われている白河市のシンボルです。

本地区は、歴史的資源である小峰城跡・白河駅舎等を視対象とする白河市の歴史と文化の拠点となる地区であることから、景観計画重点区域に指定します。



小峰城跡三重櫓

【景観特性】

◎小峰城跡史跡地区

約 700 年前に城郭としての歴史がはじまった小峰城（写真①）は、江戸時代初期の約 400 年前に城下町とともに再整備され、白河藩主の居城として政治の中心を担っていました。現在は本丸と二の丸跡に相当する区域が国指定史跡となっています。また、本丸跡には三重櫓、前御門などの建築物が木造復元されており、友月山、都市計画道路白河駅白坂線などの主要な視点場⁵からの眺望景観の視対象となっています。

景観づくりの上で重要な建造物である三重櫓については、市街地からの眺望を確保するとともに、景観重要建造物に指定しました。（平成 23 年 9 月 1 日指定第 1 号）

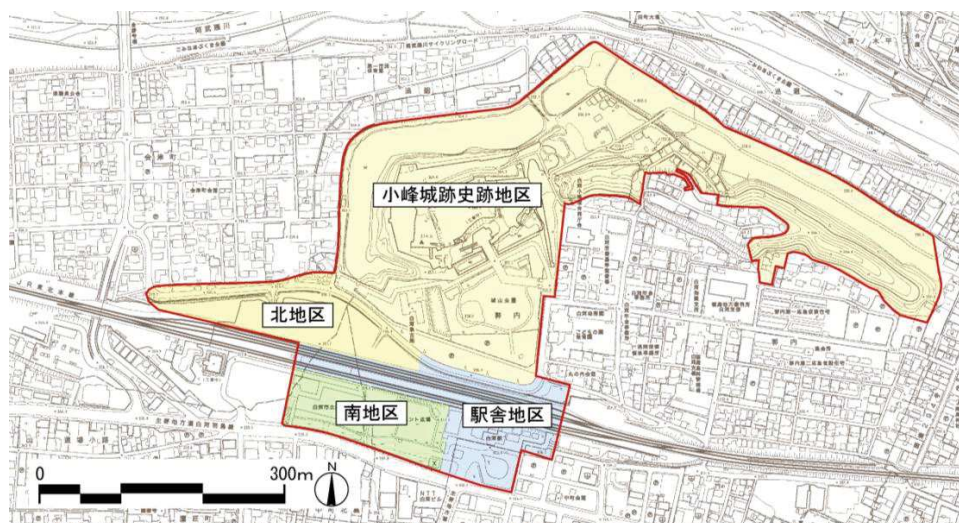


図7 景観計画重点区域の範囲

⁵ 視点場：対象となる景観を見る場所のこと。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

◎駅舎地区・南地区・北地区

旧三の丸跡に大正時代に建築された白河駅舎（写真③）とプラットホームは、交通の結節点、中心市街地の顔として、また全国でも数少ない大正ロマンあふれる駅舎として乗降客をはじめ市民に親しまれています。

プラットホームの南には、文化ゾーンとして地区計画が導入されている南地区が隣接しており、平成23年7月には白河市立図書館（写真②）、平成28年10月には白河文化交流館が開館しました。また、北地区は、景観保全地区として地区計画が導入されています。

【良好な景観の形成に関する方針】

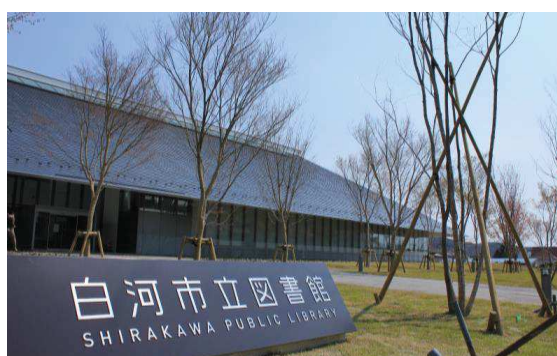
- 小峰城跡に代表される市街地形成の歴史的経緯を尊重しながら、白河市の顔としてふさわしい景観づくりを進めます。
- 白河市にとって重要なシンボルである小峰城跡三重櫓への眺望景観の十分な確保を図ります。
- 白河市の顔となる歴史拠点として、将来的には都市計画法に基づく景観地区指定を検討します。
- 大正時代に建てられた貴重な地域資源であるJR白河駅舎周辺については、大正建築のデザインを尊重し、駅舎のイメージを損なわない景観形成を図ります。

【都市景観大賞（都市空間部門）優秀賞】

白河市の有する歴史資源と那須連峰を望む優れた環境に加えて、小峰城道場門遺構、駅前イベント広場（写真④）や図書館の整備など、白河市が取り組んできた自然、歴史、文化が融合した景観形成により街の魅力が育まれていることが評価され、平成26年度都市景観大賞「都市空間部門」優秀賞を受賞しました。



①小峰城跡三重櫓・前御門
（白河市景観重要建造物 指定第1号）



②白河市立図書館



③白河駅舎



④小峰城道場門遺構、駅前イベント広場

第2章 良好な景観の形成に関する方針

南湖公園周辺地区（景観計画重点区域）

【位置づけ】

白河市の宝である南湖公園は、貴重な歴史的・文化的資源として市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。特に、千世の堤（写真③）を視点場とした那須連峰への眺望景観は、白河市にとって貴重な財産です。

こうした貴重な歴史的・文化的資源を将来にわたって保全していくため、周辺一帯を景観計画重点区域に指定します。



南湖公園から那須連峰を望む

【景観特性】

200年前、白河藩主松平定信が士民共楽の理念のもとに雄大な眺望景観（借景）を創出させた南湖公園は、白河市の宝であり、貴重な歴史的・文化的資源として市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。那須連峰と関山を眺望景観（借景）に取り入れ、南湖の周囲を鏡の山、月待山、小鹿山などの丘陵が取り囲み、四季折々の景観を楽しむことができます。また、共楽亭（写真①）、翠楽苑（写真②）、南湖神社といった地域資源が点在し、往時の姿が現在にも継承されています。

しかし、近年においては南湖上流の新白河駅周辺地区における高層ビル等の建設や市街化により、千世の堤を視点場とした那須連峰への眺望景観（借景）が阻害される状況が一部に見られています。このため、南湖公園を含む周辺一帯の地区について、良質な景観形成を図る必要が生じています。

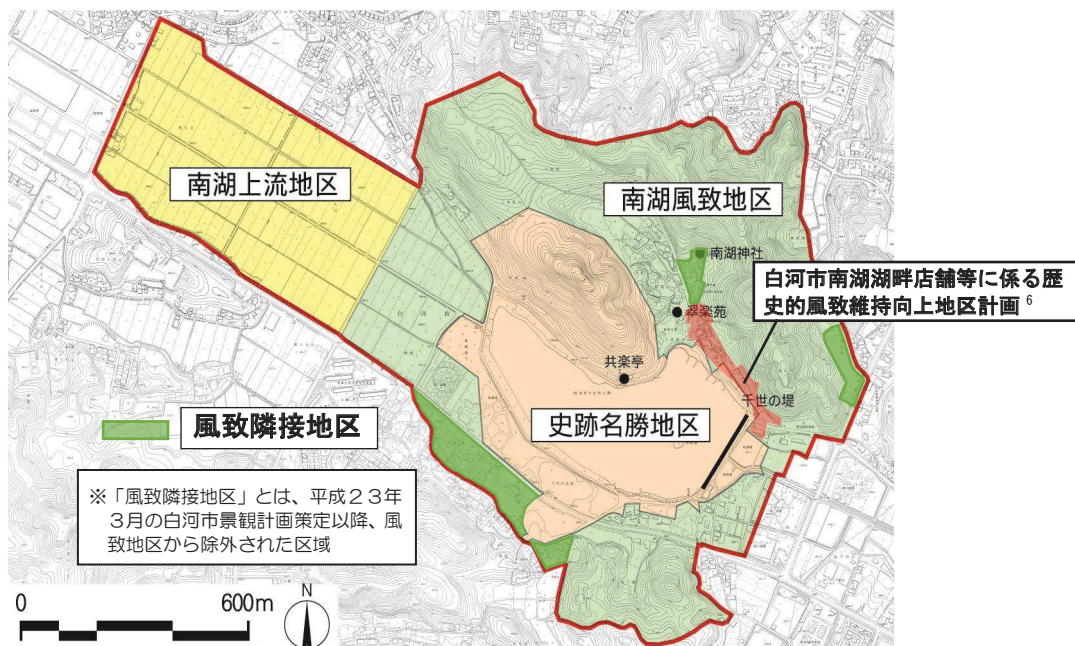


図8 景観計画重点区域の範囲

⁶白河市南湖湖畔店舗等に係る歴史的風致維持向上地区計画：地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づき歴史的風致形成する店舗群を維持向上させるために地区指定するもの。平成28年7月1日指定。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 南湖公園を景観上さらに魅力あるものとし、来訪者を惹きつける歴史・文化の拠点とするため、「史跡名勝南湖公園 第2次保存管理計画」⁷に基づき景観保全を図ります。
- 南湖公園千世の堤を視点場とした那須連峰の眺望景観（借景）を確保するため、農政部局と調整を図り国道294号（旧奥州街道）より東側の農振農用地については農的景観を積極的に保全します。
- 共楽亭、翠楽苑、南湖神社等の地域資源を尊重し、南湖公園のイメージを損なわない景観形成を図ります。
- 公園内に立地する建築物等については、市民との話し合いを進めながら、南湖の風致に調和した景観づくりを行っていきます。
- 看板類・自動販売機等は、南湖の風致に調和した誘導に努めます。
- 白河市の宝として、将来的には都市計画法に基づく景観地区指定を検討します。
- 歴史まちづくり法に基づく白河市南湖湖畔店舗等に係る歴史的風致維持向上地区計画に指定された区域においては、南湖の歴史的風致と調和した形態・意匠の建築物等の整備を行います。（写真④）



① 共楽亭



② 翠楽苑(白河市景観重要建造物 指定第2号)



③ 千世の堤



④ 歴史的風致維持向上地区計画指定区域

⁷史跡名勝南湖公園 第2次保存管理計画：歴史的・文化的資源である南湖公園を適切に保存管理・整備・活用を図り、次世代へ末永く継承していくため、史跡等を構成している歴史や文化、自然、環境、景観などの諸要素を考察し、それらを適切に保存・管理及び運営するための基本方針や方法と整備活用の骨子を示した計画。平成20年3月策定。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

白河関跡周辺地区（景観計画重点区域）

【位置づけ】

本地区は、古代から先人が守り築いてきたかけがえのない歴史的遺産である白河関跡を核とし、白河関の森公園を含む地区です。

貴重な歴史的遺産を将来にわたって保全していくため、景観計画重点区域に指定します。



白河関跡

【景観特性】

奈良・平安時代頃に存在した国境の関である白河関跡（写真①②④）は、国指定史跡であり、文学の世界では歌枕として数多くの古歌に詠まれ、歴史景観上重要な場所となっています。

隣接地には「白河関の森公園」（写真③）が整備されており、茅葺民家を移築したふるさとの家や大型遊具があり、多くの利用者がいます。

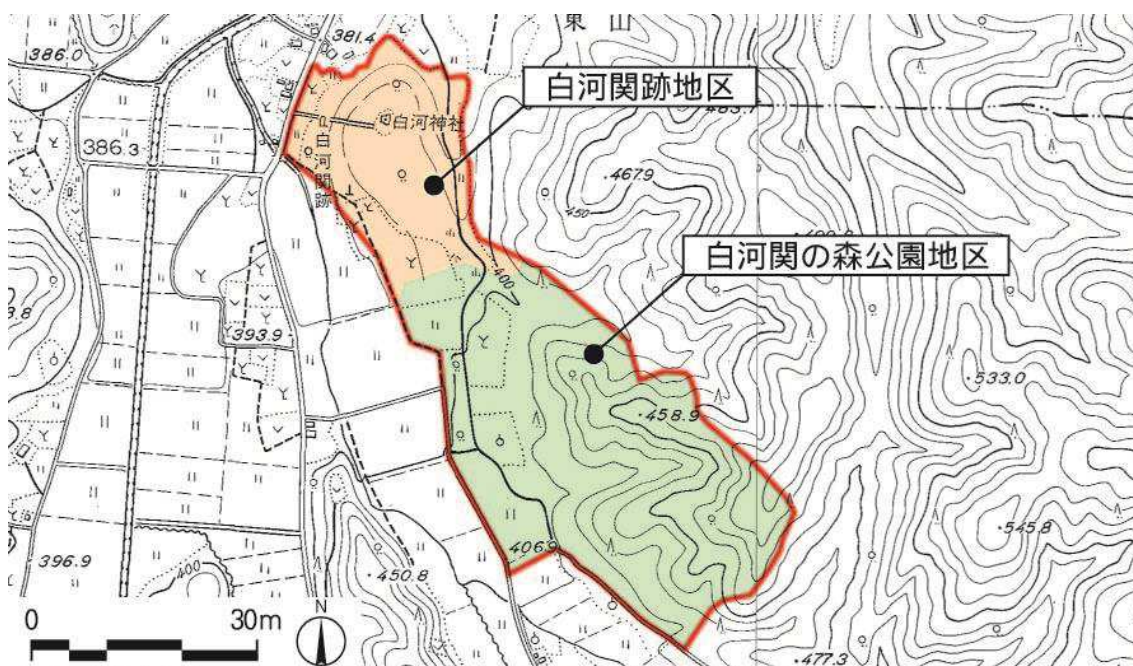


図 9 景観計画重点区域の範囲

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 白河関跡及び隣接する「白河関の森公園」と周辺の自然環境との連携を図り、貴重な歴史資源として趣のある景観を形成します。
- 建築物や看板等は、歴史資源や周辺の自然環境と調和した落ち着いた趣のある景観を形成できるようデザインや色彩に配慮します。
- 将来的には都市計画法に基づく景観地区指定を検討します。



①白河関跡のフジ



②白河関跡の古関蹟碑



③白河関の森公園



④白河神社

城下町地区（景観計画推進区域）

【位置づけ】

旧奥州街道（国道294号）に沿って発展してきた本地区は、沿道に蔵や商家などの歴史的景観が残り、白河だるま市、白河提灯まつりなど、白河市を代表する祭りが行われ、白河市のにぎわいの拠点となる地区です。

景観協定の導入等、住民との協働によるルールづくりを積極的に進めることをめざして、景観計画推進区域に指定します。



老舗通り

【景観特性】

約400年前に奥州街道沿いに整備された城下町地区は、現在も白河市の中心市街地としてその歴史が受け継がれています。奥州街道沿いやその裏通りには、町境ごとに力ギ形状の街路が残り、沿道には伝統的な店構えの商家や蔵など（写真①～③）が多く、さらに白河藩歴代大名墓所の存在する小南湖周辺（写真④）の丘陵地も含め、全体が城下町らしい歴史的空間を醸し出しています。

また、奥州街道や裏通りの街路の軸線上には、背景として那須連峰の山並みや風神山・雷神山などの丘陵が見えるように街路の方向が定められており、山当てと呼ばれる景観作法を現在でも読みとることができます。

しかし、伝統的な商家づくりの建物や蔵が減少し、城下町のおもかげは徐々に失われつつあります。また、駅前周辺から小峰城跡三重櫓への眺望景観に対して、道路付属物等が支障となっており、都市計画道路白河駅白坂線沿道の景観形成や、友月山などからの眺望景観の確保が求められています。

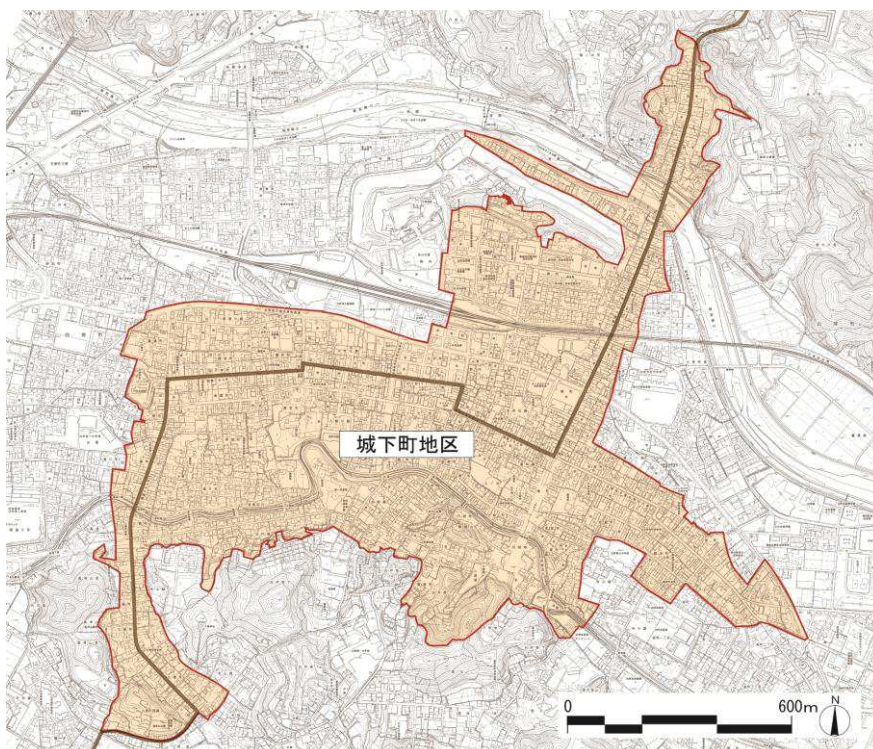


図10 景観計画推進区域の範囲

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- カギ型の奥州街道の骨格を活かすとともに、由緒ある寺社仏閣や歴代大名の墓所がおかれる小南湖周辺などにあるまとまった緑地が作り出す風情ある景観を守り育てていくため、建物の色彩やデザインに配慮した、落ち着いた雰囲気のある景観形成を行っていきます。
- 主要な視点場（友月山、都市計画道路白河駅白坂線）から三重櫓への眺望を確保するとともに、カギ型街路部分における山当てに配慮するため、建築物等の高さや形態に関するルールを導入します。
- 住民ワークショップなどの実施をはじめ、住民に対して景観まちづくりへの参加を継続的に働きかけ、市民一人ひとりが参画する地域主体の景観づくりを推進します。
- 住民間の約束事を取り決める景観協定の締結を積極的に推進し、建築物や工作物、屋外広告物等の規模や形態、色彩等について、住民との協働によるルールづくりを検討します。
- 城下町を意識した建築物等の形態・意匠・色彩等の推奨基準を定めた「白河市景観形成ガイドライン⁸」などの基準に適合する建築物等に対する景観補助や表彰に取り組みます。あわせて、町屋にみられる短冊形の敷地制約を魅力あるものとして活用した、白河ならではの特色あるまちなか居住を推進します。



①通りのランドマークになっている松と蔵



②飲食店に活用されている歴史ある建物



③住まいに活用されている蔵



④歴代大名の墓所がおかれる小南湖

⁸白河市景観形成ガイドライン：景観計画の方針に基づき、地域の歴史文化を活かしたまちづくりのために策定した景観設計指針。平成24年3月策定（令和4年3月一部改定）。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

城下町地区重点推進区域（景観計画推進区域）

【位置づけ】

景観計画推進区域に指定した城下町地区の中でも、旧奥州街道（国道294号）等、白河市の歴史経緯を象徴する街道沿いについては、歴史的景観資源が豊富に存在する地区であり、重点的に景観形成を推進するために、景観計画推進区域城下町地区において、重点推進区域に指定します。



重点推進区域沿線の街並み

【景観特性】

この地区は、奥州街道沿いのかつての町人町で、現在も昔ながらの短冊状の敷地割りが残り、沿道には伝統的な店構えの商家や蔵などの建築物と明治・大正時代の趣ある建築物が商店等として利用されながら多く残っています。

また、平成23年2月（第2期：令和3年3月）に国認定を受けた白河市歴史的風致維持向上計画に基づき指定した歴史的風致形成建造物のうち約7割の建造物が集中している地域です。

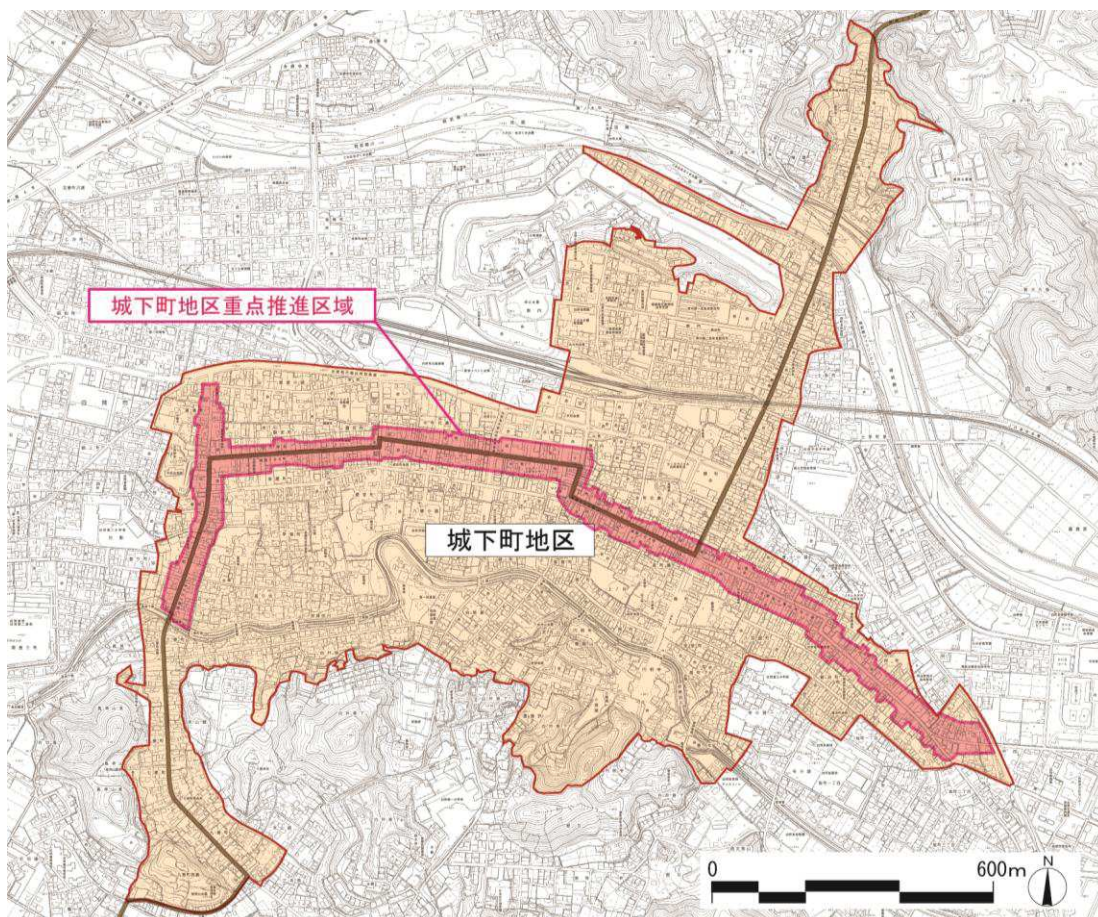


図 10-1 城下町地区重点推進区域の範囲

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 城下町を意識した建築物等の形態・意匠・色彩等の推奨基準を定めた白河市景観形成ガイドラインに基づき、基準に適合する建築物等に対し、積極的に景観補助に取り組みます。
- 町屋にみられる短冊形の敷地制約を魅力あるものとして活用した、白河ならではの特色あるまちなか居住を積極的に推進します。
- 周辺の建物との連続性に配慮し、歴史的な意匠を継承した景観へと誘導することで、歴史的建造物と現代の街並みが調和する街道沿いの景観を形成することを目指します。
- 区域に残る歴史文化資源を活かした住民による景観まちづくり協定の締結に向けた活動等を積極的に支援していきます。
- この地区は、鹿嶋神社祭礼（白河提灯まつり）の運行ルート、白河だるま市の開催会場等になっており、電線・電柱類が祭礼時の景観阻害要因及び運営支障となっているため、無電柱化を整備推進するための調査・検討等を行い、歴史的な街並みの維持、形成に繋げていくものとします。



① 櫻井呉服店建造物群（道場町）



② 藤屋建造物群（二番町）



③ 今井醤油店建造物群（天神町）



④ 大谷忠吉本店（白陽酒造）建造物群（本町）

第2章 良好な景観の形成に関する方針

歴史的街道沿いの集落地区（景観計画推進区域）

【位置づけ】

奥州街道、白河街道（会津街道）、石川街道、棚倉街道等の歴史的街道に面する集落には、現在も宿場町のおもかげを残す建築物等があり、個性的な景観を創出している地区です。景観協定の導入等、住民との協働によるルールづくりを積極的に進めることをめざして、景観計画推進区域に指定します。

【景観特性】

江戸時代に奥州街道や会津街道等の宿場として人と物の往来でにぎわった歴史的街道沿いの集落（写真①～④）には、現在も宿場の風情が残されている地区があります。

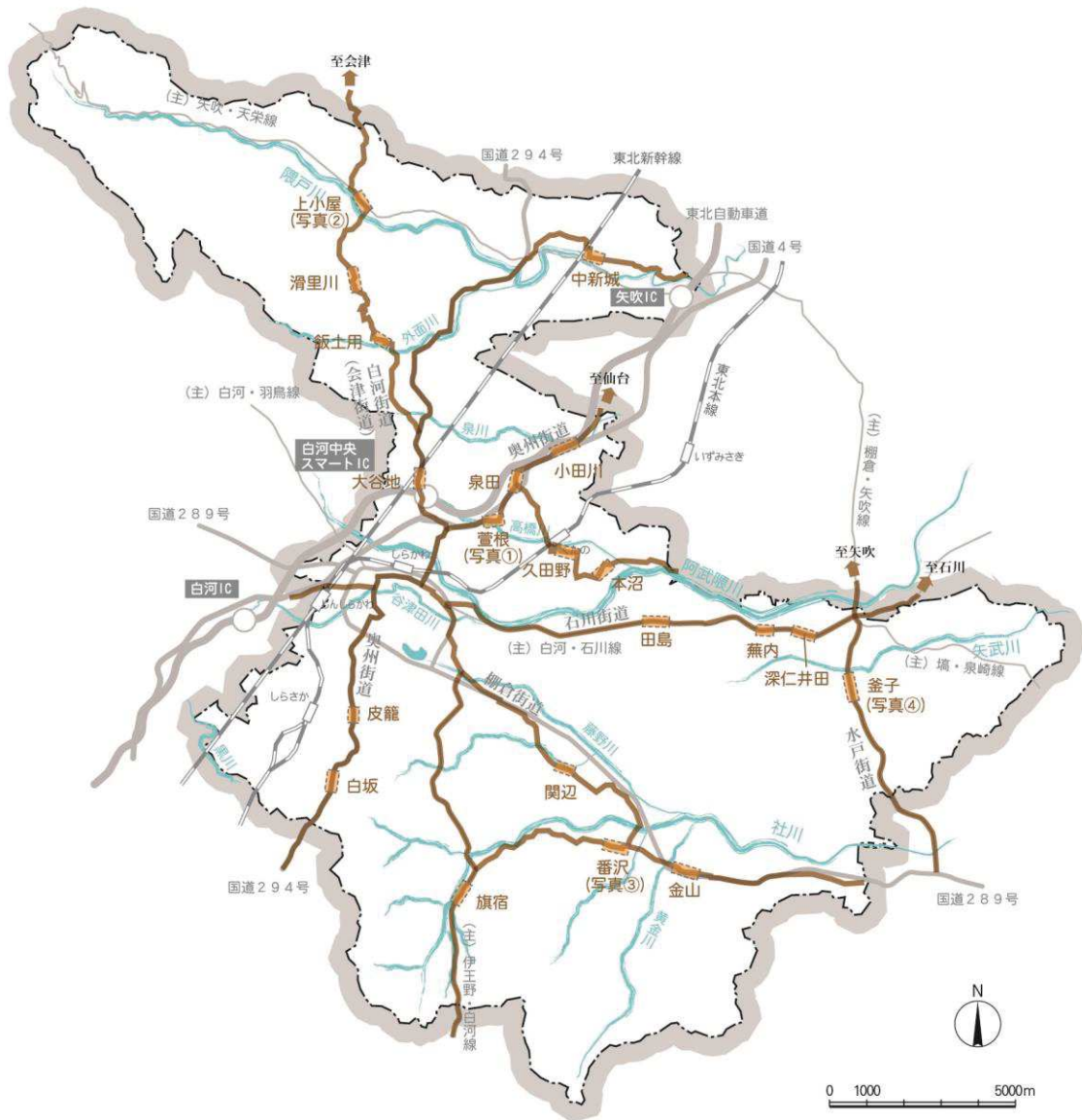


図 11 景観計画推進区域の範囲

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 沿道の歴史的な街並みや歴史的建造物等の景観資源の保全・活用を図り、宿場的景観の形成を進めます。
- 那須連峰をはじめとする山並みなど、地域に親しまれている眺望景観や視点場を再発見し、集落や旧街道等における視点場整備を検討します。
- 住民間の約束事を取り決める景観協定の締結を積極的に推進し、宿場的景観を意識した建築物の高さや工作物、屋外広告物等の規模、形態、色彩等について、住民との協働によるルールづくりを検討します。
- 宿場的景観を意識した建築物の形態、意匠、色彩等の推奨基準となる白河市景観形成ガイドラインに基づき、当該ガイドラインの基準等に適合する建築物等に対する景観補助等に取り組みます。



① 萱根



② 上小屋（大信地域）



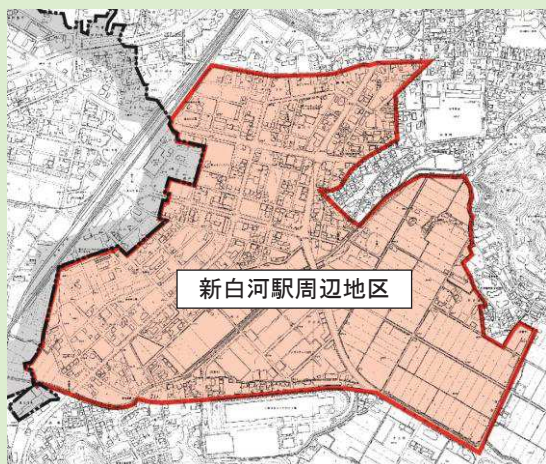
③ 番沢（表郷地域）



④ 釜子本町（東地域）

■ 都市景観

新白河駅周辺地区



新白河駅周辺の高層ビルと低層住宅

【位置づけ】

本地区は、新たな都市環境形成が進展しており、中心市街地との都市的な役割分担を考慮しながら、重要な交流拠点の一つとなる地区です。

【景観特性】

昭和 57 年に東北新幹線が開業し、新白河駅が設置されて以降、新白河駅周辺には分譲マンションやホテルなど、高さ 30m 前後の高層ビルが立ち並び、様々な商業施設が立地しています（写真①～③）。この地区は、昭和 54 年から平成 10 年にかけて土地区画整理事業が行われ、効率的な土地利用が図られています。

また、南湖公園方面においては、田園景観と市街地景観が混在する状況にあり、南湖公園へのアクセスにふさわしい景観形成が必要となっています。

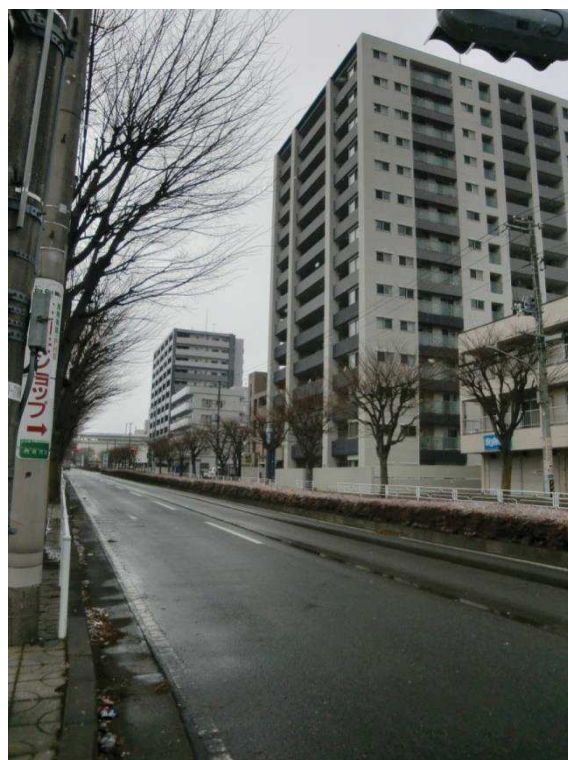
【良好な景観の形成に関する方針】

- 市民の商業ニーズを支える本地区は、白河市の新しい顔として土地の高度利用を図りつつ、南湖公園から那須連峰への眺望を阻害しないよう、景観法による建築物等の高さや形態に関するルールを導入します。
- 新白河駅周辺の幹線道路沿道における良好な景観形成をめざし、色彩や屋外広告物等に関するルールづくりを進めます。

第2章 良好な景観の形成に関する方針



① 幹線道路沿道の大規模小売店舗

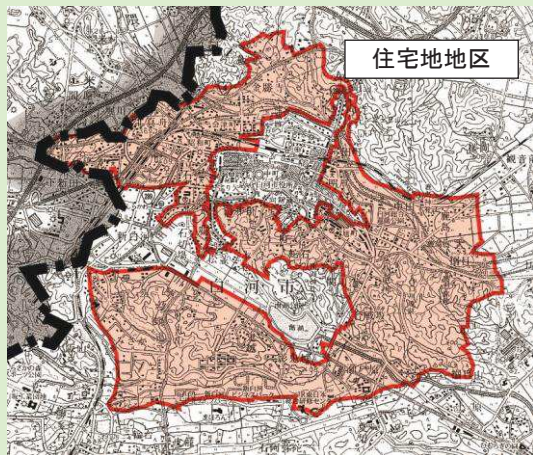


② 新白河駅周辺の高層ビル



③ 新白河駅周辺の高層ビルと那須連峰

住宅地地区



新白河ニュータウン

【位置づけ】

本地区は、低層住宅を中心としたゆとりのある住宅地です。

【景観特性】

中心市街地（城下町地区）と新白河駅周辺地区、南湖公園周辺地区を結ぶ環状道路沿いに商業施設や宅地が連なり、その周辺を取り囲むように新白河ニュータウン、南湖ニュータウン等の低層型住宅を中心とした地区が広がっています。新白河ニュータウンでは、都市緑地保全法に基づいた緑化協定⁹が行われ、良質な街並みの環境整備が図られています。また、国道4号等の幹線道路沿線は、商業系の土地利用が図られています。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 低層住宅を中心とする住宅地として、落ち着いた雰囲気と潤いのある緑豊かな景観形成を図ります。
- 建築物等の規模・配置や形態意匠の工夫、外構の緑化等により、住宅地の背景となる山並みの稜線や丘陵地等の地形との調和に配慮します。
- 地区計画や景観協定、市民自身の取組みにより、白河らしい歴史を感じさせる落ち着いた雰囲気の景観づくりを進めます。
- 戸建て住宅が建ち並ぶ住宅団地や一定規模以上の宅地開発等については、景観協定や緑化協定等市民のルールづくりによって、建物の外観の統一や緑化の推進により、緑あふれる良好な家並み景観づくりを行います。

⁹緑化協定：土地所有者等の合意によって緑地の保全や緑化に関する協定を締結する制度で、平成7年の法改正により「緑化協定」が「緑地協定」に名称変更。また、平成16年の都市緑地保全法改正の際、法律名が「都市緑地法」に改正されました。

工業団地地区



工業の森・新白河

【位置づけ】

本地区は、市民の就業の場となり、まちの活力を生み出す工業地です。

【景観特性】

市街地を取り囲むように、市民の就業の場となり、まちの活力を生み出す工業団地が分布しており、緑豊かな工場地の景観が形成されています。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 周辺の緑豊かな自然景観との調和に努めるとともに、自然環境や住環境、幹線道路からの見え方に配慮した緑豊かな景観づくりを進めます。
- 建築物等の規模・配置や形態意匠の工夫、外構の緑化等により、工業地の背景となる山並みの稜線や丘陵地などの地形との調和に配慮します。

■ 田園景観

阿武隈川流域地区



阿武隈川

【位置づけ】

市の中央部を東西に流れる阿武隈川とその支流である高橋川・泉川流域に小田川、大沼、五箇、釜子、小野田などの集落が点在し、歴史的な風情を残した田園環境を有している田園集落地です。

【景観特性】

市の中央部を東西に流れる阿武隈川とその支流である高橋川・泉川流域には、小田川、大沼、五箇、釜子、小野田などの田園と集落が分布する地域です。

小田川地区北側の小田川、萱根の集落は、江戸時代に奥州街道の宿場町として栄え、現在では国道4号や東北自動車道の幹線道路の沿線に位置しています。

大沼地区は、白河城下の総鎮守である鹿島神社が所在し、神社の森となる円錐形の丘陵は当該地区の主要な視対象となっています。

五箇地区は、江戸時代の松平定信の頃の記録に「土地がよく肥え米穀をよく産し、白河郡一の味」と賞賛された肥沃な土地で、阿武隈川流域に双石・板橋・舟田・田島・借宿・入方・細倉などの集落が分布しています。

釜子地区は、阿武隈川の支流である矢武川流域に釜子・深仁井田・形見・栃本・千田等の集落が分布しています。この地区を南北に縦断する主要地方道棚倉矢吹線は地域の骨格を形成する道路となっています。

小野田地区は、矢武川流域に上野出島・下野出島などの集落が分布しています。上野出島地区の満徳寺には樹齢約300年以上のしだれ桜、下野出島地区の石原にも樹齢300年以上のしだれ桜があり、いずれも市の天然記念物に指定されています。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 阿武隈川沿いに広がる田園は、里山にいだかれた特色ある風景をつくっていることから、今後も都市的土地利用の抑制に努め、農業上の土地利用との適切な調整の下に、農用地の保全に努めます。
- 地域住民と連携しながら背景となる山並みや自然風景と調和した景観づくりを進めるため、地域にそぐわない建築物が立地しないよう、住民同士のルールづくりや立地規制を検討していきます。
- 田園内を通過する道路沿いの広告・看板等の秩序化、田園風景にふさわしい民家デザインの情報発信等について検討していきます。
- 良好な田園風景を形成している田畑や河川、水路等については、市民との話し合いを進めながら、河川・水路等が特徴づける田園風景を次世代に伝えていくためのガイドラインの作成などを検討していきます。
- 集落地内やその周辺に残された屋敷林、寺社林、水路等の緑については、保全に努めて次世代へと継承するとともに、地域住民に親しまれるゆとりとやすらぎの空間として活用していきます。



図 12 阿武隈川流域地区の主要景観資源

社川流域地区



田園景観

【位置づけ】

関山の麓を東西に流れる社川流域とその支流である藤野川流域に白坂、旗宿、関辺、古関、金山、社などの集落が分布し、歴史的な風情を残した田園環境を有している田園集落地です。

【景観特性】

社川とその支流である藤野川流域には、白坂、旗宿、関辺、古関、社、金山を中心に集落と田園が分布しています。南側は栃木県境に接する八溝山系が連なり、独立丘陵となる標高619mの関山はこの周辺のランドマーク的存在となっています。

また、この流域からは西側に那須連峰の眺望景観が美しく広がり、遠景での視対象となっています。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 社川沿いに広がる田園は、里山にいだかれた特色ある風景をつくっていることから、今後も都市的土地利用の抑制に努め、農業上の土地利用との適切な調整の下に、農用地の保全に努めます。
- 関山及び西側に広がる那須連峰への眺望景観の保全を図ります。
- 地域住民と連携しながら背景となる山並みや自然風景と調和した景観づくりを進めるため、地域にそぐわない建築物が立地しないよう、住民同士のルールづくりや立地規制を検討していきます。
- 田園内を通過する道路沿いの広告・看板等の秩序化、田園風景にふさわしい民家デザインの情報発信等について検討していきます。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

- 良好な田園風景を形成している田畑や河川、水路等については、市民との話し合いを進めながら、河川・水路等が特徴づける田園風景を次世代に伝えていくためのガイドラインの作成などを検討していきます。
- 集落地内やその周辺に残された屋敷林、寺社林、水路等の緑については、保全に努めて次世代へと継承するとともに、地域住民に親しまれるゆとりとやすらぎの空間として活用していきます。



ピャッコイ自生地



図 13 社川流域の主要景観資源



庄司戻しの桜



社田の五葉松

隈戸川流域地区



隈戸川と田園

【位置づけ】

権太倉山と聖ヶ岩付近を源流とする隈戸川沿いに隈戸、下小屋、町屋、増見、上新城、中新城、下新城などの集落が点在し、歴史的な風情を残した田園環境を有している田園集落地です。

【景観特性】

聖ヶ岩付近を源流とする隈戸川と、その支流である外面川流域に豊地、増見、町屋、上新城、中新城、下新城を中心に田園と集落が分布しています。主要地方道矢吹・天栄線と国道294号は、隈戸川と外面川沿いの細長い平地を通り、この地域を形成する骨格的な道路ともなっています。

特に隈戸川流域からは権太倉山を眺望することができ、当地区のランドマーク的存在となっています。また、夫婦岩や弁天岩等の奇岩や町屋の二本カヤ、天神乳銀杏など、貴重な景観資源があります。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 隈戸川沿いに広がる田園は、山あいの特色ある風景をつくっていることから、今後も都市的土地利用の抑制に努め、農業上の土地利用との適切な調整の下に、農用地の保全に努めます。
- 権太倉山への眺望景観の保全を図ります。
- 地域住民と連携しながら背景となる山並みや自然風景と調和した景観づくりを進めるため、地域にそぐわない建築物が立地しないよう、住民同士のルールづくりや立地規制を検討していきます。

第2章 良好な景観の形成に関する方針

- 田園内を通過する道路沿いの広告・看板等の秩序化、田園風景にふさわしい民家デザインの情報発信等について検討していきます。
- 良好な田園風景を形成している田畑や河川、水路等については、市民との話し合いを進めながら、河川・水路等が特徴づける田園風景を次世代に伝えていくためのガイドラインの作成などを検討していきます。
- 集落地内やその周辺に残された屋敷林、寺社林、水路等の緑については、保全に努めて次世代へと継承するとともに、地域住民に親しまれるゆとりとやすらぎの空間として活用していきます。



図 14 限戸川流域地区の主要景観資源



町屋の二本カヤ

■ 自然景観

権太倉山麓地区



権太倉山

【位置づけ】

田園地帯の奥に広がる権太倉山等は、キャンプや登山のメッカとして市民から親しまれるとともに、隈戸川流域からの重要な眺望景観（借景）となっています。

【景観特性】

市の最高峰である権太倉山は美しい稜線を持ち、麓には聖ヶ岩が位置するなど、四季を通じて豊かな自然に恵まれており、ふるさとの山として地域に親しまれ、大信地区からの重要な眺望景観となっています。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 権太倉山は、自然環境に囲まれた白河市を特徴づける重要な景観要素であるため、その自然景観を保全するとともに、市民が自然の大切さを実感できる空間としてふさわしい景観の形成に努めます。
- 隈戸川流域からの重要な眺望景観（借景）である権太倉山の眺望景観の保全を図るとともに、市内の主要な地点に視点場となる場所を設けることを検討します。
- 権太倉山への良好な眺望を確保するため、市民との話し合いを進めながら、建築物等の高さのルールづくりなどについて検討します。

八溝山麓地区



天狗山

【位置づけ】

八溝山系の山並みは、福島県、栃木県、茨城県の三県にまたがる県境に位置し、社川流域からの重要な眺望景観となっています。

【景観特性】

八溝山系に連なる山並みは、社川流域の背景としても重要な景観資源となっています。犬神ダムからは良好な眺望景観が得られます。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 天狗山等八溝山系の山並みは、自然環境に囲まれた白河市を特徴づける重要な景観要素であるため、その自然景観を保全するとともに、市民が自然の大切さを実感できる空間としてふさわしい景観の形成に努めます。
- 社川流域からの重要な眺望景観となっている山並みであるため、市街地の背景として眺望景観の保全を図るとともに、市内の主要な地点に視点場となる場所を設けることを検討します。
- 山並みへの良好な眺望を確保するため、市民との話し合いを進めながら、建築物等の高さのルールづくりなどについて検討します。

■眺望景観

【位置づけ】

那須連峰をはじめとする山々や、小峰城跡三重櫓に代表されるランドマークとなる建築物等を眺望して得られる景観であり、白河市の特徴的な景観となっています。

【景観特性】

遠景の那須連峰は、白河市を代表する美しく雄大な景観として昔から広く親しまれてきました。季節や天気、時間帯によって様々な表情を見せる那須連峰の眺望は、市民の生活に溶け込み、白河市の特徴的な景観となっています。また、南湖公園から那須連峰や関山を望む眺望景観は、市民はもとより多くの来訪者に親しまれています。

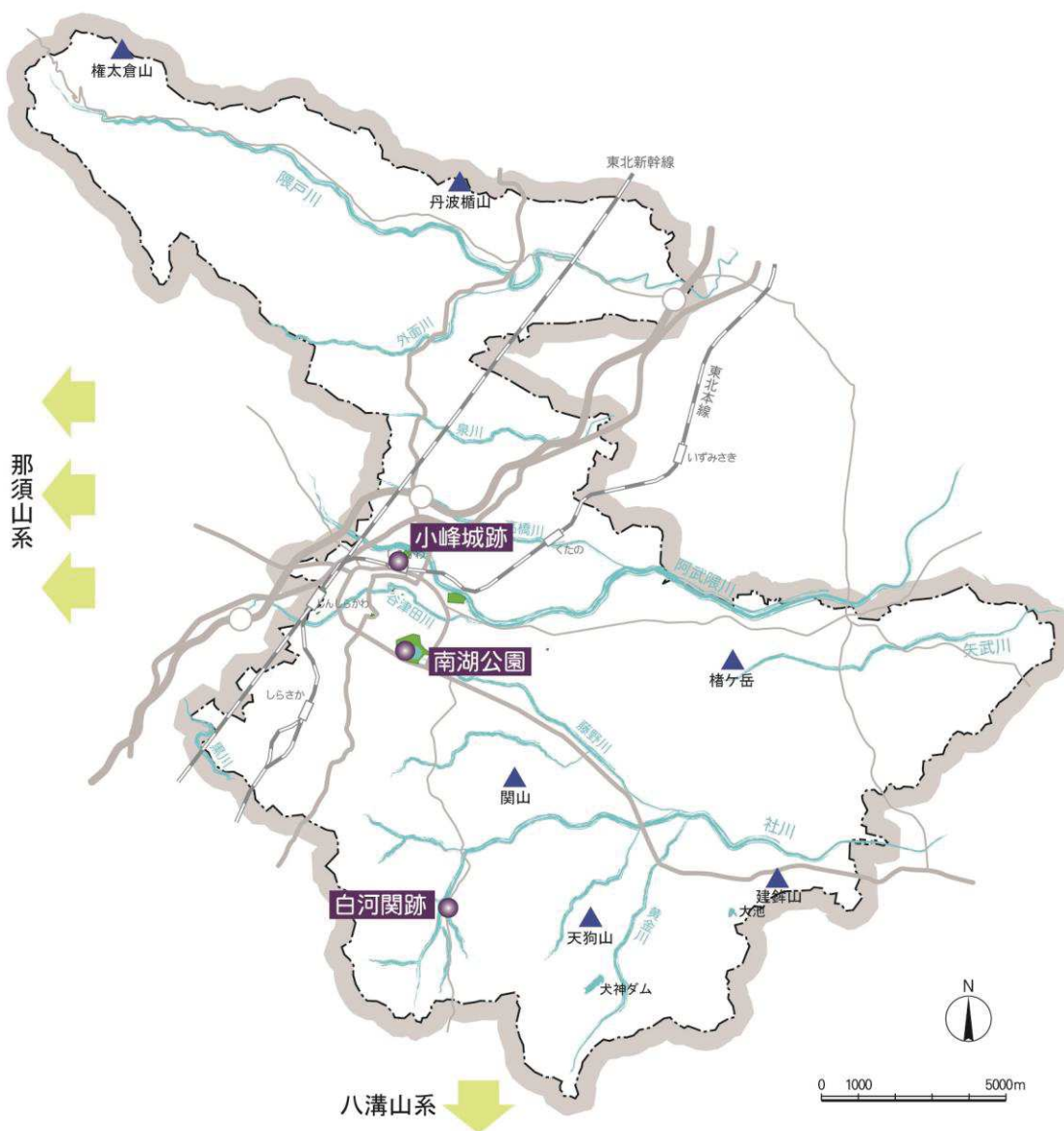


図 15 眺望景観

第2章 良好な景観の形成に関する方針

市街地においては、友月山、都市計画道路白河駅白坂線（視点場）等から小峰城跡三重櫓が眺望景観の視対象となっているとともに、小峰城跡三重櫓からは四方が見渡せるパノラマ景観が得られます。また、友月山や天神山、雷神山、羅漢山等からは江戸時代に整備された旧城下町のまち並みが見渡すことができ、城下の主要な通り（天神町・中町・本町等）では、風神山、雷神山などの周囲の特徴的な丘陵地の見通しが印象的な場所も多く残っています。

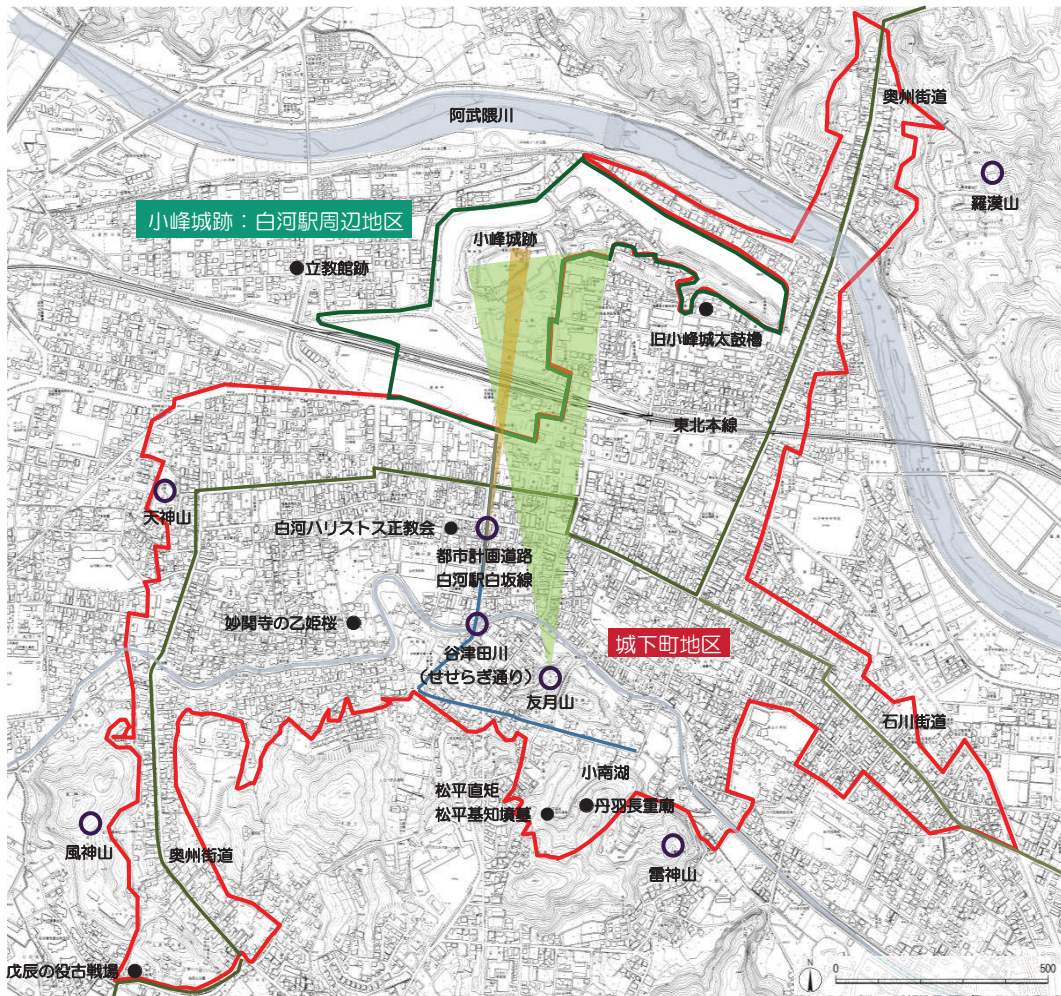


図 16 中心市街地における視対象と視点場



都市計画道路白河駅白坂線からの眺望



友月山からの眺望

第2章 良好な景観の形成に関する方針

白河市の代表的な視点場である小峰城跡本丸と南湖湖畔から丘陵の麓に注目して視線の広がりを見ると、四方が見渡せる小峰城跡からのパノラマ景観は様々な距離の視線によって構成されているのに対し、南湖湖畔からの視線は東西方向に限定されて遠方へ伸びていることがわかります。

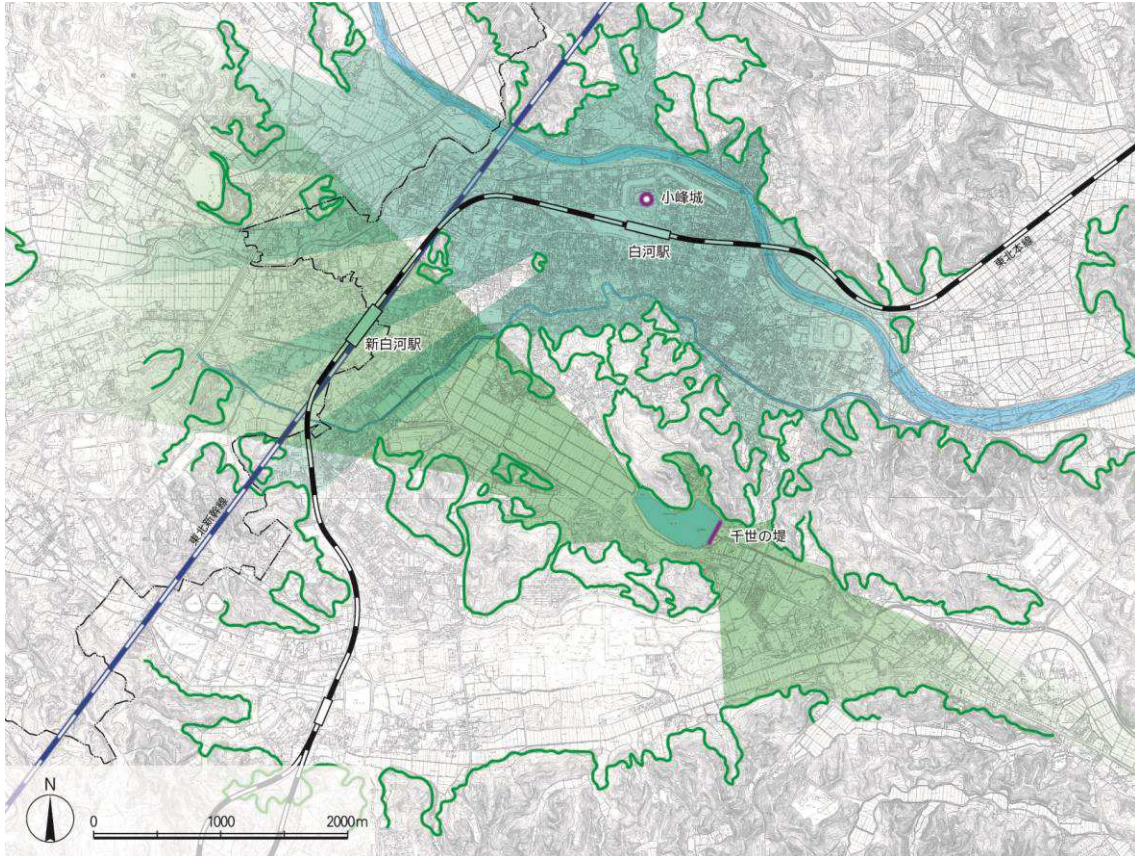


図 17 小峰城跡本丸と南湖湖畔からの視線の展開



南湖公園からの眺望

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 四季折々に変化するいどり豊かな山並み景観は、白河市の景観を構成する最も重要な要素として守っていきます。
- 市街地から那須連峰への眺望景観を阻害しないよう、山並みへの眺望景観に配慮した景観形成を誘導します。
- 各地域で親しまれている山並み景観として、権太倉山、関山、天狗山などを望見する主要な視点場を市民との合意形成のもとに設定し、視点場及びその周辺を整備するなどしてその眺望を確保していきます。
- 友月山、都市計画道路白河駅白坂線からの小峰城跡三重櫓への眺望景観、南湖公園から那須連峰や関山を望む眺望景観等を保全するため、眺望を阻害するおそれのある建築物等の高さや形態、色彩等を誘導します。
- 眺望景観をできるだけ阻害しないように、市民との話し合いを進めながら、建築物・工作物の高さ、配置、形態、色彩等のルールづくりなどについて検討します。



南湖公園千世の堤の松並木

■ 景観軸

道路軸

【位置づけ】

道路は、人々の様々な活動を支える交通機能だけでなく、沿道の土地利用を含めて線的なオープンスペースとして位置づけられる景観軸です。また、那須連峰をはじめとする山並みや歴史的な建造物などへの視点場ともなっています。

【景観特性】

道路には、沿道利用のあり方に影響を与え、空間を規定していくという先導機能があることから、沿道建物等と一体となった景観形成が重要となります。

また、歴史的街道は、沿道に残る歴史的な建築物と山並みを背景とした特徴的な景観となっています。

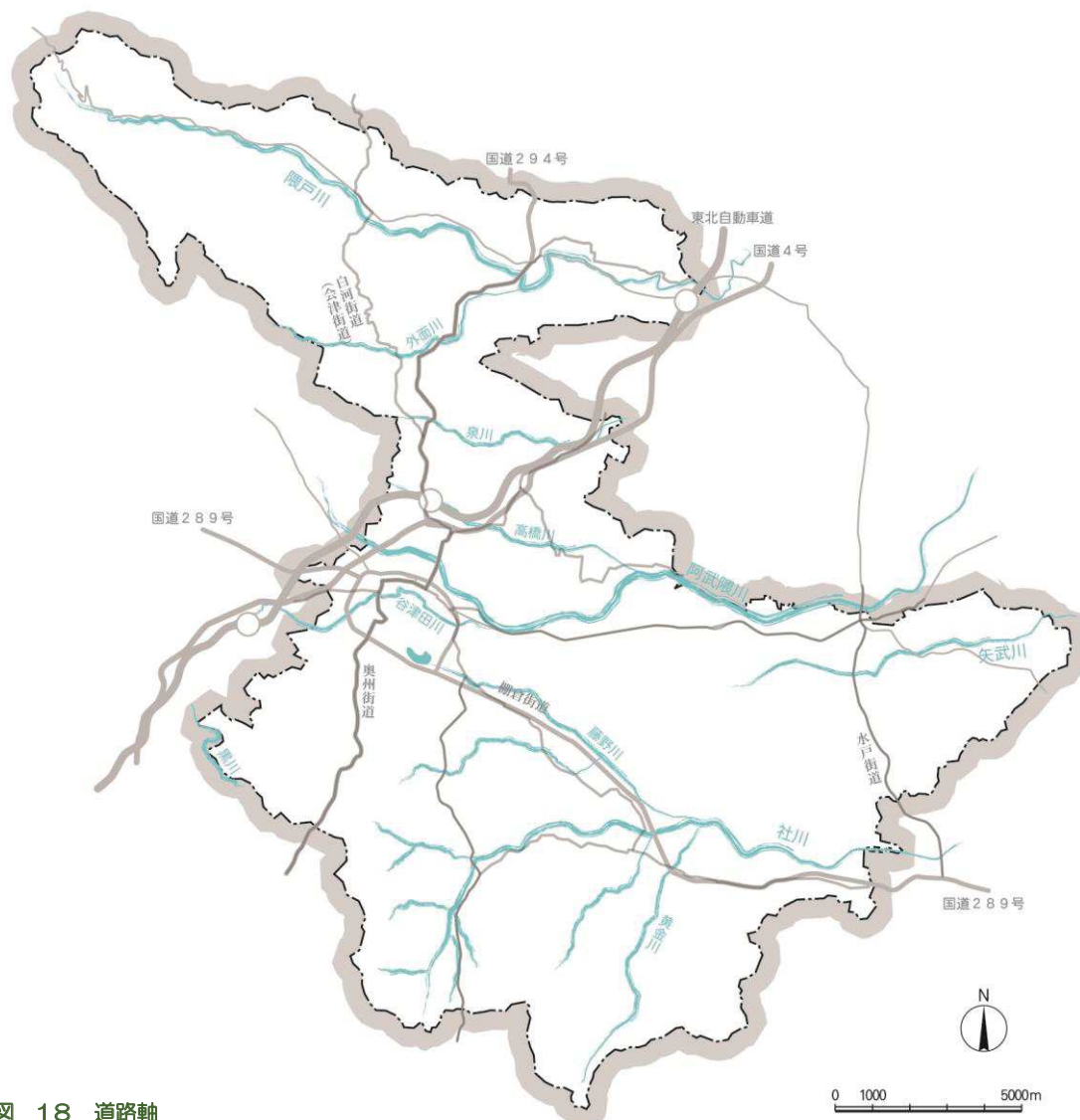


図 18 道路軸

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

- 道路空間の整備が沿道景観の形成に先導的な役割があることを認識し、案内板や標識、道路付属物等について歴史的な街並みとの調和に配慮した整備を行うとともに、調和の取れた秩序ある沿道景観の形成に配慮した整備を進めます。
- 小峰城跡三重櫓や山並み等の視認性を高めるため、眺望景観に配慮した沿道景観の形成を図ります。
- 特に、都市計画道路白河駅白坂線については、無電柱化や道路標識等の整理を検討し、三重櫓への眺望を確保します。また、沿道の建築物等については、市民との話し合いを進めながら、建築物・工作物の高さ、配置、形態等のルールづくりなどについて検討します。
- 中心市街地内の幹線道路については、高質舗装やシンボリックな植栽、ストリートファニチャー¹⁰等のデザインを工夫して、魅力あるにぎわい空間を演出します。



都市計画道路白河駅白坂線



都市計画道路白河駅棚倉線

¹⁰ ストリートファニチャー：主として歩道上に設置される様々な装置。例えば、ベンチ、サイン、電話ボックス、ごみ箱、プランターボックス等、家具的な街路備品のことです。

河川軸

【位置づけ】

河川は、白河市の骨格を形成するとともに、沿川の土地利用を含めて線的なオープンスペースとして位置づけられる景観軸です。また、那須連峰や権太倉山をはじめとする山並みなどへの視点場ともなっています。

【景観特性】

山間地から市街地へと流れる阿武隈川、社川、隈戸川は、山並みを背景とした見通しの効く特徴的な景観軸を形成しています。

市街地を流れる谷津田川は、街並みに潤いを与え、地域住民の憩いの場となっています。

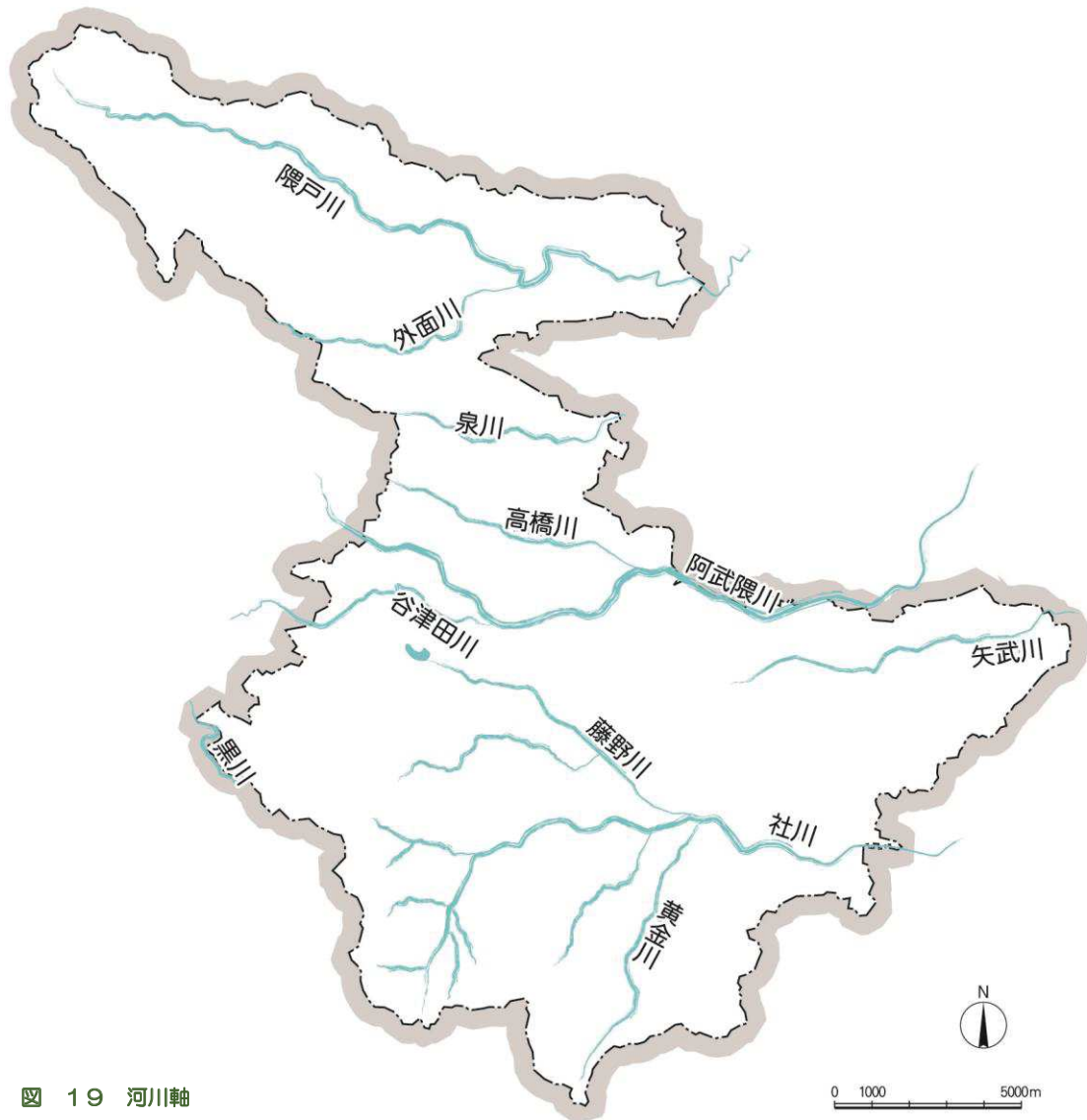


図 19 河川軸

第2章 良好な景観の形成に関する方針

【良好な景観の形成に関する方針】

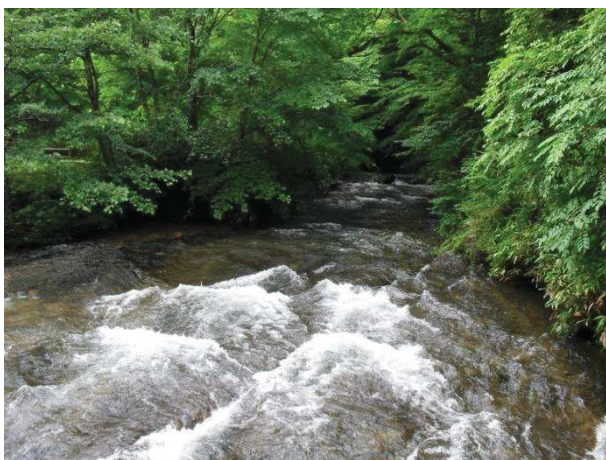
- 河川並木や親水護岸の整備、水質浄化等を促進し、四季折々に楽しむことができる潤いある水の景観づくりを進めます。
- 河川緑地の保全や親水化を進めながら、気軽に川や水に親しめる景観づくりを行っていきます。
- 美しい水辺景観を保全するため、川沿いに設置される標識・ガードレール等の道路附属物が目立たないデザインとなるよう工夫し、周辺の景観に融和した景観形成を図ります。
- 市街地を流れる谷津田川は、市街地の中で豊かな自然環境を感じることもできる貴重な場であり、市民が身近にふれることのできる良好なオープンスペースとして、周辺環境と調和したデザインによる施設整備を進めます。



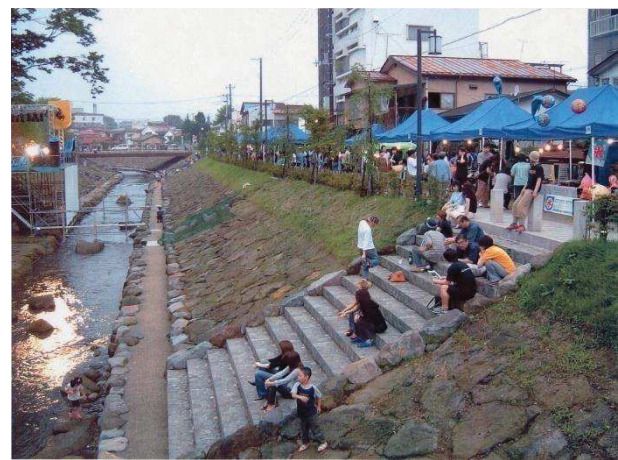
阿武隈川



社川



隈戸川



谷津田川

■ 景観拠点

【位置づけ】

市内に点在する建築物や工作物、樹木といった点的景観資源は、地域の歴史を今に伝えるシンボリックな存在として、地域の景観に影響を与えています。

【良好な景観の形成に関する方針】

- 点的な景観資源を保全するとともに、その貴重な景観を阻害しないよう、周囲についても配慮することにより良好な景観形成を図っていきます。

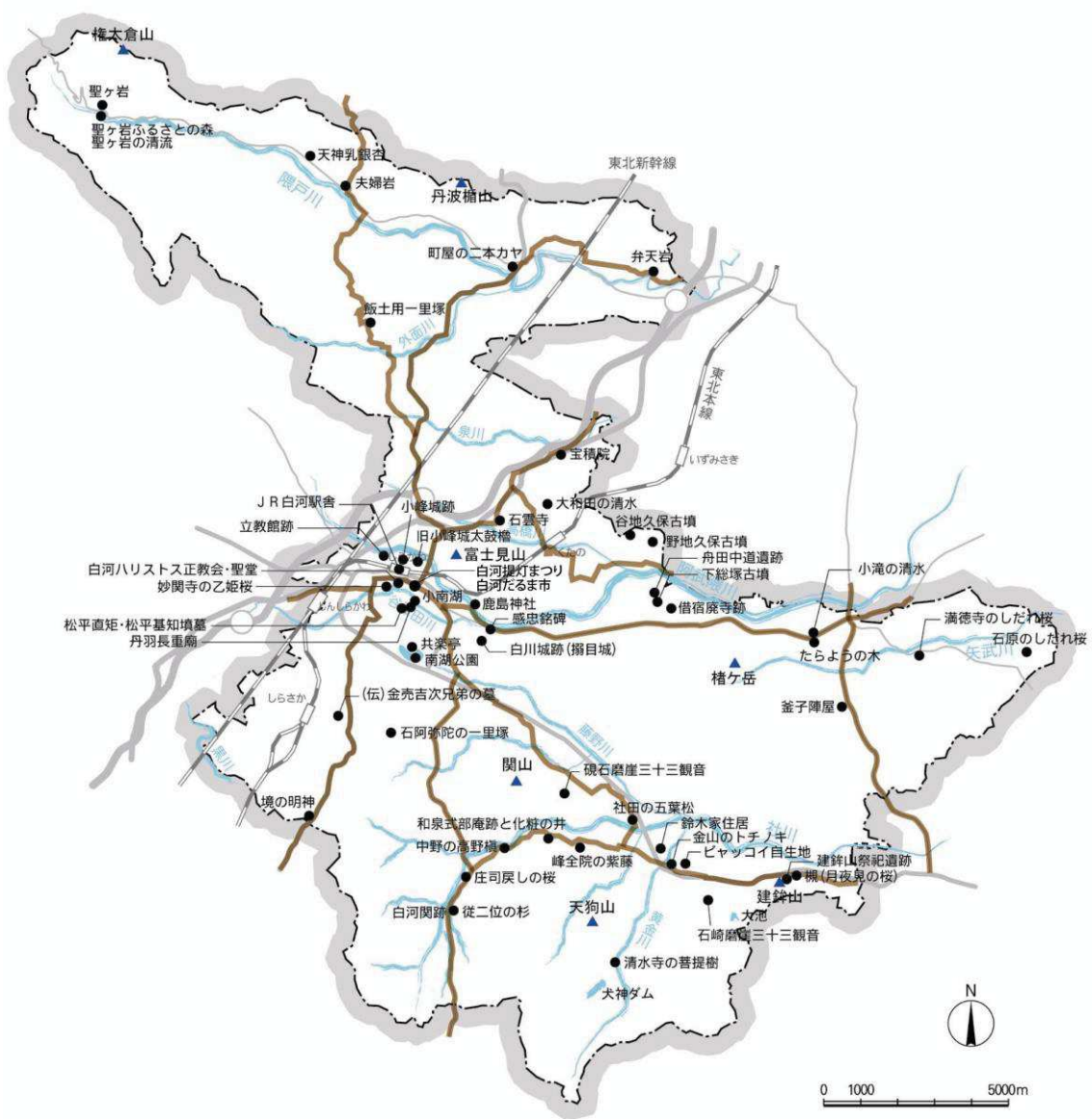


図 20 景観拠点